

当院のスタッフ (チームZAITAKU)

医師						
			看護師			
				事務		
						
ケアマネ			ケアマネ			
						

医師紹介 とば しょうそう 鳥羽 昭三

皆様こんにちは。4月から赴任させていただいた鳥羽昭三です。生まれは四国の徳島県です。家の周りに田畑が広がるのんびりした田舎で育ちました。クリニックのある山城の辺りは実家の雰囲気と似ています。大分医科大学を卒業して15年になります。外科医として医者スタートし、5年前から静岡県浜松市で在宅医療に携わってまいりました。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になるまであと10年です。超高齢化社会に向け、在宅医療が見直されるようになってきております。在宅医療は地域によって違いがあるそうです。5年間で慣れた職場を離れることに寂しさもありましたが、新しい世界を見たいという気持ちもあり、転職を決めました。赴任後数日経ちましたが、患者さんとの関わりから事務的なことまで、早々にいろいろな経験をさせていただいております。戸惑うこともあります。視野が広がっていくことに喜びも感じております。違いはあっても、在宅医療で大切なことは、患者さんに住み慣れた環境で過ごしていただくことと考えております。患者さんやご家族の気持ちに沿えるよう、仕事させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

看護師だより

～あきらめない、強くしなやかなころ～



Bさんは近江商人ゆかりの地、歴史も深い滋賀県近江八幡市に住んでおられました。整形のご病気で歩けなくなったため、約1年半前に娘さんご家族のおられる三重県で過ごされるようになりました。初めてお会いさせていただいたころのBさんは左腕、両膝、腰の痛みが強く、一人では立てない状態で日常生活全般に介助が必要な状態でした。

Bさんはお元なころ多彩な趣味をお持ちでした。その中でも60の手習いではじめられた俳句、絵は季節に合わせて違うものを飾っておられ、どれも優しい筆遣い。現在は手根管症候群という手に麻痺が起こる病気によって筆を持つことは困難になっておられますが、これまでに作成された作品の数々は訪問する私たちの心を和ませてくれます。そして忘れてはならないのはBさんのことを見守り、いつもそばにつきそっている信長くん(柴犬、オス、4歳)の存在です。Bさんの娘さんが織田信長のファンだったことからお孫さんが命名されたそうです。信長くんはBさんがトイレに行くときドアの外で待機。時には「トイレまだ～？」

と覗いたり、夜間寝るときはベッド横でBさんを気遣うように傍らで常に見守ってくれています。

痛みが強かったBさんでしたが、トラムセットという痛み止めが体に合い痛みを訴えられることがほぼなくなりました。実際に痛みがなくなってからはベッド上でできるリハビリを始め、あきらめず根気強く続けていっていただきました。

ある日訪問させていただくと「先生！立てました！！」という驚きの声。実際に立っていただくと、ベッドの高さなどの調節はいるものご自分の足で確かに立っていらっやいます。本当におどろきました。通常ベッドで寝ている時間が長いと1週間で10～15%の筋力低下があるといわれています。1年と少しの間、主にベッド上で過ごされていたBさんにとって奇跡といつていいほどの出来事です。私たちがBさんからあきらめない、前向きな心の大切さを改めて教えていただきました。Bさん、娘さん、信長君これからもたくさん笑顔を見せてください。



ご自分の足で立ち上がるBさん

アートギャラリー

今回も患者さんの素敵な作品をご紹介します！

